

クラス	QA304	担当教員	土井裕貴
テーマ	対人援助職のメンタルヘルス，子どもとの心理臨床		
著書・論文	【論文】・キャリアの浅い対人援助職者の疲労に伴う主観的な感情体験についての日誌調査 感情心理学研究 44-52 (2018)		
研究課題等	・対人援助職従事者におけるバーンアウト・感情労働の関係性—精神的な疲労に着目する意義について—、大阪大学教育学年報 83-95 (2014)		
	・万能的なふるまいをする女子中学生とのスクールカウンセリング—Thはスクールカウンセラーとして何ができたのか—、大阪大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要, 15-23 (2016) 他		
	【研究課題】支援者支援, 質的研究, 心理アセスメント, 乳幼児～思春期の心理臨床		
ゼミナール概要			
キーワード：心理アセスメント、質的研究法、乳幼児～児童思春期臨床			
内容：			
① 対人援助職のメンタルヘルスについて：対人援助職（以下、援助職）は教師や福祉職、心理職など、「援助をする」ことを仕事とする職業です。皆さんの中にも援助職に就く予定の方は多いのではないのでしょうか。しかし、援助職者の中には、就職後、早々に離職する方やメンタル不調に陥る方も多く見られます。それらの援助職者のメンタルヘルスに関連することをテーマに研究しています。最近では援助職者自身が自己理解を深めることが重要なのではないかと感じています。			
② 様々な質的研究法：心理学的研究法の中でも質的研究法に関心があります。ストーリーや文脈を重視して、共通性だけではなく、個別性を描くことに関心があります。			
③ 心理アセスメントについて：知能検査、発達検査、人格検査（特にロール・シャッハ法）などの心理検査を用いてテストバッテリーを組み、心理アセスメントを実践してきました。最近では、心理検査、心理アセスメントの結果を効果的にフィードバックする手続きについて興味を持っています。			
④ その他：臨床は主に乳幼児の発達相談や、児童期・思春期を中心に、カウンセリング、プレイセラピー、障がいのある方との動作法などを行ってきました。最近では産業領域にも関わっています。			
学習目標：			
① 自身の関心、興味、疑問を追求し、積極的に情報収集する、自ら足を運んで体感するなどの主体性を身に着ける。			
② 自らの関心、興味、疑問について、意見を持ち、議論できる。			
③ 自身の関心をもとに、心理学的手法を用いて卒業論文を完成させ、心理学的研究の知識を身に着ける。			
授業計画等：			
＜3年次＞			
・前期：受講生と相談の上、前期の活動内容を決定する。今年度はグループ発表と個人発表を一回ずつ行うことを通して、各自の関心を掘り下げる活動を実施。			
・後期：グループでの研究活動。グループごとにテーマを決め、研究活動を一通り実施し、卒論作成のイメージをつかむ。			
＜4年次＞			
・前期：各自で選定したテーマについて、調査計画を立てて、調査を実施する。前期中に調査を終了する。			
・後期：ゼミでの発表を通して、ブラッシュアップさせながら卒業論文を完成させる。			
担当教員からのメッセージ			
教員のテーマとの異同は問わず、自身のテーマをしっかりと探求したい方、ゼミ活動にしっかりとコミットしたい方を募集します。皆さんの希望次第ですが、外部機関への見学や、ゼミ以外での勉強会なども実施できればと思います。是非、積極性を発揮してください。			
また、ゼミでは、積極的に意見を求めることが多く、またプレゼンテーションの機会も多くなりますので、希望される方は心の準備をしておいてください（学期ごとの課題もあります）。			
頑張っって取り組んだ分だけ、自分の身につくものも多いです。是非一緒に頑張りましょう。			
アットホームだけど、しっかり議論もできる、そういったゼミ運営をしていきましょう。			